

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 景気ウォッチャー調査(2007年2月)
～春物衣料の動きがよく、家計関連が改善～

発表日 2007年3月8日(木)

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 副主任エコノミスト 長谷山 則昭
TEL : 03-5221-4525

原数値	景気の現状判断(方向性)				景気の先行き判断(方向性)				景気の現状判断(水準)				
	合計	家計動向 関連	企業動向 関連	雇用関連	合計	家計動向 関連	企業動向 関連	雇用関連	合計	家計動向 関連	企業動向 関連	雇用関連	
06年	2	53.5	51.6	55.1	62.4	56.6	56.3	55.7	61.0	49.7	47.0	52.3	61.0
	3	57.3	56.0	57.5	65.5	56.2	56.2	54.0	61.3	53.4	51.5	53.9	64.8
	4	54.6	53.1	54.7	64.4	55.0	54.8	53.5	59.1	50.6	48.1	52.9	61.8
	5	51.5	50.6	50.6	59.6	53.8	53.6	52.0	58.4	48.2	45.9	49.9	59.4
	6	49.1	47.3	50.1	58.2	51.8	51.3	50.7	57.4	46.3	43.5	48.7	59.3
	7	48.4	46.5	50.1	57.2	49.8	49.0	48.8	57.0	45.2	42.3	48.1	57.8
	8	50.2	49.1	49.1	59.8	51.5	51.0	49.9	58.4	47.3	45.3	47.6	59.4
	9	51.0	49.2	51.2	61.2	52.8	52.5	51.2	58.0	47.6	44.8	49.9	60.9
	10	50.8	49.1	51.2	60.6	52.5	51.9	51.3	59.3	47.8	44.9	50.4	61.2
	11	48.9	47.5	49.6	56.0	49.7	49.3	48.1	56.2	46.4	43.3	49.7	59.0
	12	48.9	47.6	50.2	54.5	48.9	47.9	49.8	53.3	46.4	43.7	50.1	56.0
07年	1	47.2	45.7	47.3	56.3	50.9	50.6	49.8	55.1	44.4	41.3	47.1	58.3
	2	49.2	47.9	49.8	55.9	52.1	52.3	49.6	55.9	46.8	44.1	49.8	57.4

(出所)内閣府「景気ウォッチャー調査」

季節調整値	景気の現状判断(方向性)								
	DI				前月差				
	家計動向 関連	企業動向 関連	雇用関連	家計動向 関連	企業動向 関連	雇用関連			
06年	2	54.2	52.2	56.0	64.0	▲ 0.4	▲ 0.3	▲ 0.3	▲ 0.9
	3	54.0	52.4	54.8	63.7	▲ 0.2	0.1	▲ 1.3	▲ 0.3
	4	51.9	50.2	51.6	62.1	▲ 2.1	▲ 2.2	▲ 3.2	▲ 1.6
	5	50.6	49.4	49.7	60.8	▲ 1.3	▲ 0.8	▲ 2.0	▲ 1.2
	6	48.8	46.9	49.9	59.1	▲ 1.7	▲ 2.5	0.2	▲ 1.8
	7	47.4	46.3	48.9	57.1	▲ 1.4	▲ 0.6	▲ 1.0	▲ 2.0
	8	50.0	49.0	49.1	58.3	2.6	2.8	0.1	1.2
	9	51.3	50.0	50.7	58.4	1.3	1.0	1.7	0.1
	10	52.1	50.9	51.5	59.0	0.8	0.9	0.7	0.6
	11	50.5	49.2	51.0	57.8	▲ 1.6	▲ 1.8	▲ 0.5	▲ 1.2
	12	50.9	48.9	52.4	57.4	0.4	▲ 0.2	1.4	▲ 0.4
07年	1	49.4	47.5	51.1	57.7	▲ 1.5	▲ 1.5	▲ 1.3	0.2
	2	49.9	48.6	50.6	57.3	0.5	1.1	▲ 0.5	▲ 0.3

(出所)内閣府「景気ウォッチャー調査」より当社試算

○現状判断DIは前月から改善

2月の景気ウォッチャー調査は、現状判断DI(方向性)が49.2と前月から2.0ポイント改善したものの、「景気の中立」を示す50は4ヶ月連続で下回った。先行き判断DIについては52.1と前月から1.2ポイント改善し、中立の50を上回った。なお、景気ウォッチャー調査の現状判断DI(方向性)を当社で季節調整をかけたベースでは、2月は49.9(前月:49.4)と前月から小幅改善している。内閣府によれば、景気ウォッチャーの判断を総合すると「景気は回復が緩やかになっている」とのことである。

○家計動向関連では1月に押し下げ要因となった暖冬が2月はプラス要因に

現状判断DI(方向性)の内訳をみると、家計動向関連の現状判断DI(季節調整値、以下同じ)は前月差+1.1ポイント、企業動向関連は同▲0.5ポイント、雇用関連が同▲0.3ポイントとなった。

家計動向関連については暖冬がDIの改善に寄与した。衣料品の主力が冬物だった1月は暖冬が売上の不調につながったが、2月に入って品揃えが冬物から春物に変わったため、今月は天候要因が売上増に貢献した模様である。

「暖冬の影響で、春物の売れ行きは前年の7、8割も増加している。セレモニーや旅行関連商品も活発で

あり、セレモニーは従来の汎用性の高いものから、ドレスアップ志向でその日だけ着る一点物へ、客の目移っている。総じて春物が全体を引っ張った（北陸＝百貨店）」

企業動向関連は2ヶ月連続の低下となった。自動車や一般機械等での受注が引き続き好調であることが確認されたが、業種によっては販売単価の低下や低価格での受注も少なくないため利益の確保が困難との声もあり、DIは低下した。

「機械部品のメッキ業や自動車部品製造業、各種機械製造業、金属加工業などの製造業が好調であるほか、受注の増加している中小企業も増えてきている（近畿＝金融業）」

「何とか受注にこぎつけているが、相変わらず低価格での受注を余儀なくされ、原価が下がらず、利益を確保するのが困難である（南関東＝建設業）」

雇用関連動向については57.3と横ばいを示す50を上回った。景気の回復傾向が続いていることや、2007年からの団塊世代の退職もあって新卒採用などの労働需給は逼迫しており、雇用環境は引き続き改善傾向である。

「いまだに2007年卒業生に対して求人があり、また、追加募集の学生を要望する企業が多くなっている（南関東＝学校[短期大学]）」

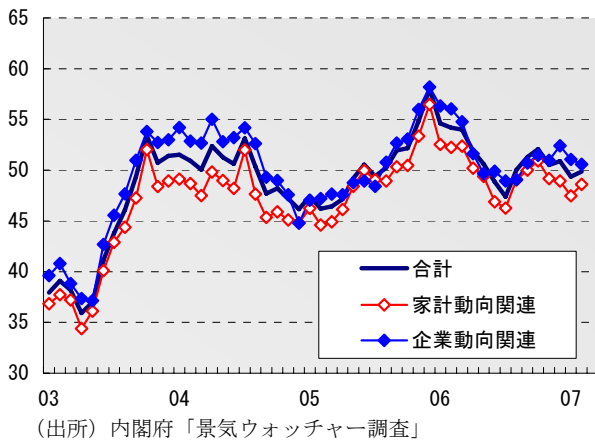
先行き判断DIについては、内閣府の公表値では52.1と前月から1.2ポイント改善したものの、当社の季節調整済みの値では50.7と前月から0.1ポイント低下した。家計動向関連のコメントを見ると旅行需要に対して期待する声が見られたが、もともと春は需要が増加しやすい季節でもあるため割り引いて考える必要がある。なお、日本銀行が2月21日に追加利上げを行なったが、この利上げに対しては総じてネガティブな声が多かった。政策金利の利上げのペースは緩やかなものとなることがコンセンサスとなっているが、仮に早いペースで実施された場合には、設備投資を中心に悪影響が大きくなる可能性があると考えられる。

「4～5月にかけての団体旅行の相談が増えてきている。また、家族、グループでの海外旅行、国内旅行の相談申し込みも増えて来ている。団塊世代の退職もありこれからの旅行シーズンに需要が増えてくる（四国＝旅行代理店）」

「客の中から金利に対する懸念の声が聞かれ、今後金利の引き上げの動向によって資金需要は停滞するため、やや悪くなる（北関東＝電気機械器具製造業）」

「一足遅れでやっと上向きつつあり、来期には設備投資を計画している矢先に、金利が引き上げられ、出鼻をくじかれている（東海＝一般機械器具製造業）」

景気の現状判断DI（方向性、季調値）



景気の先行き判断DI（方向性、季調値）

